

LES ANNÉES SANDWICHES

サンドイッチの年

ビエール・ブートロン監督作品

出演 ヴォイチェフ・ブシヨニャック トマ・ラングマン ニコラ・ジロティ ミシェル・オーモン クロー

ヴィス・コルニャック 原作セルジュ・レニツ 脚色・脚本 ビエール・ブートロン ジャン・クロード・

グルンベルグ 撮影 トミニク・ブラバン 音楽 ロラン・ロマネリ 製作 フィリップ・テュサール

1988年 / フランス / 1時間40分 / カラー / 配給 株式会社 シネセゾン

「カラシがいつば、で涙しても、噛みしめなきゃならん時があるぞ」



★物語★

1947年夏、15歳の少年ヴィクトールは預けられていた家を飛び出し、パリに戻って来た。

地下鉄構内で、ニッカーボッカーに皮の鞆を持った金持ちの息子フェリックスと出会う。同じ年の二人はたちまち気を通じ、フェリックスは地理に不案内なヴィクトールを以前住んでいたアパートまで送り、電話番号をメモして渡す。しかしヴィクトールがやっとたどり着いたアパートにはもう知る人は誰も住んでいなかった。独り途方にくれて街を彷徨い歩いているうちに古物商の戸に貼られた求人案内を見つめる。店主のマックスじいさんは、雇い入れる為にヴィクトールのこれ迄の事をたずね、少年が預けられていた家から金を盗んで出てきた事を知ると、ユダヤ人は決して異教徒に借りを作ってはいけない」と諭す。少年には、ユダヤ人のどこが他の人々と違うのかわからないままうなずき返す。屋根裏部屋に住み込み、店の仕事をする事になったヴィクトールは、マックスじいさんのめまぐるしい性格の変化と、親友フェリックスとの楽しい逢瀬の中で時を過ごしてゆく。

そんな時に闇取引をしている少年ブルと接し、予期せぬ事件が起きてしまう…。

★解説★

「サンドイッチの年」とは、人生の中で最も中味の濃い時期の事を語っている。それはまるで厚いパンの間に挟まれた、冷たくて薄っぺらな肉片のように、噛みしめれば噛みしめるほどに味わい深くなる。

主人公ヴィクトールは戦争で両親を収容所に連れ去られて、ひとりぼっちになってしまった少年。パリで出会った同い年のフェリックスや、ユダヤ人の老古物商マックスによって、苦くも貴重な体験を味わう事になる。少年の日々を、表と裏から綴った記録の見本ともいえるこの映画は、ピエール・ブーロン監督の2作目である。

前作はオスカー・ワイルド原作「LE PORTRAIT D'UNE FEMME」を、舞台を演出すると共に映画化し、グレイの肖像」を、舞台を演出すると共に映画化し、その年(1877年)のカヌヌ国際映画祭の正式出品作にもなった。フランスでは、テレビドラマや舞台の脚本、演出を数多く手掛けてきたベテランである。

「サンドイッチの年」では人生の最も大切なものを描きながら、子供時代の心のゆらぎ・とまどいを静かな眼差しで見つめ続ける。

古物商のマックスに、日本でもワイタ監督の「ダントン」や「約束の土地」他でもおなじみになったポーランドの役者ヴォイチェフ・ブシヨニャック。フェリックスの伯父に扮するはコメディ・フランセーズのミシェル・オーモン。「暗殺者のメロディ」「田舎の日曜日」「C階段」「キングタイム」等、日本でも多くの作品が公開されている。主人公ヴィクトールには、映画初出演のトマ・ラングマン。先頃封切られた「愛と宿命の泉」のクロード・ベリ監督の息子である。

サンドイッチの年

フランスで各誌絶賛!! ☆☆☆☆☆

「感受性豊かでユーモア薫る映画。最後まで楽しく美しいお話は、観る者に新鮮な衝撃を与える。」

——フランス・ソワール

「とてもフランス的。そして、光っている。」

——エクスプレス

「この映画は天使のパンである。」

柔らかに味がある。」

——ジュルナル・デュ・ディマンシュ



LES ANNÉES SANDWICHES



「サンドイッチの年」オリジナル腕時計を100名様にプレゼント!

長宗節先生のかわいいイラスト入りオリジナルの時計を前売券での来場の方、100名様に抽選でプレゼントします。詳しくはシネヴィヴァン・六本木迄。お楽しみに!

新春第2弾独占ロードショー! CINE VIVANT

特別鑑賞券1,200円 絶賛発売中(当日一般1,500円・学生1,300円)

連日	土のみレイトショー			
12:00	2:20	4:40	7:00	夜 9:20

都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求めください。

シネヴィヴァン・六本木
地下鉄六本木駅下車1番出口 WAVE地下1階
お問い合わせ=03(403)6061

●自由席定員制・入替制